Ⅰ 古き森の戦記／塩見康史

◆Piccolo, Flute

3 小節目の Picc. Fl. のユニゾンは装飾音符がちゃんと聴こえるように丁寧に。3 小節目の 2 拍目、4 拍目が次の装飾音符の拍に向かうアウフタクト、と感じるように吹くと音楽が流れると思います。3 パートによる 3 オクターヴでのユニゾンはピッチを合わせるのが難しいですが、そればかりに気を取られず、歌いまわしも揃えて音楽的に吹けるように練習しましょう。C-D-C の装飾の運指は、tr. キィで吹きましょう。[B] からの 1st と 2nd、Picc. のかけあいの形はパート練習で確認しつつ、でこぼこにならずに 1 人が吹いているように聴こえるようにしましょう。Picc. の 19 小節目の C は右の薬指をプラスすると安定しやすいです。ピッチが下がる場合は使うのは避けるか左小指もプラスしましょう。25 小節目の 3 オクターヴ目の E は、ピッチが高過ぎる場合は右小指をあげると低くなります。38 小節目の Fl. のメロディーはその前の Ob. のメロディーから受け継がれるので、その流れに乗って入れるように意識しましょう。45 小節目の Fl. セクションでのハーモニーは、1 音 1 音のピッチと音量のバランスを取って吹けるよう、ゆっくりから練習しましょう。38 小節目や 45 小節目の Fl. でハーモニーを作るところの 2nd は、音域も低いのでしっかり豊かな音色で吹くと良いと思います。Picc. の 45 小節目はしっかり鳴らす事を心がけて 46 小節目は Fl. に集合するとバランスが取りやすいです。

◆Oboe

2 つの solo はいずれも五線より上の音から始まります。演奏する前にしっかり音程をイメージしておきましょう。B♭、A 共にその音を下から見上げるのでは無く上から見下ろす感覚を持てば狙いが定まりやすいと思います。また、無理をせず音程が取れるリードを選びましょう。18 小節目 4 拍目の E♭は左手小指の替え指を使ってください。[C] からの 4 小節間、付点や 16 分音符のリズムが転んでしまわないよう注意しましょう。45 小節目～ 47 小節目は A.Sax. と一緒にメロディーを演奏しますが、A.Sax. をしっかりと聴きつつも遠慮せず吹いてください。60 小節目 2、3 拍目の F を吹くに当たって、59 小節目からの dim. 具合を逆算しておきましょう。音が静かになっていく程お腹の支えが重要になります。110 小節目は Fl. と上手く繋がるよう演奏しましょう。

◆Bassoon

[A] からの 8 分音符の stacc. はアンブシュアを固くし過ぎず、舌も柔らかく使うようにして下さい。段々とテンポが遅くならないように気を付けてください。37 小節目 3 拍目の 8 分音符は St.B. の pizz. のイメージで、38 小節目の頭の D の音は後の Ob. の 2 拍 3 連符に繋がるように演奏しましょう。[F] からの E の打ち込みですが、タイで繋がっている 2 拍目の 8 分音符は後に続く B.Cl. の 2 拍目の 8 分音符と長さを揃えましょう。66 小節目からのメロディーは Cl. や Fl. の旋律のブリッジになるので、しっかり演奏しましょう。[H] からの刻みは裏拍を軽く吹くようにして、重たくならないように気を付けましょう。

Old Forest Chronicle / SHIOMI,Yasushi

◆E♭Clarinet

どのパートからメロディーを受け継いでいるのか、また、次はどのパートへメロディーを渡すのか?よくスコアを読んでみましょう。E♭Cl. が初めて出てくる 16 小節目のフレーズは [A] からメロディーを担当している Hrn.→Trp.→木管高音チーム (Cl. Fl. Ob.) へと繋がってきています。なので「ようやく出番がきたぞ! f だ! やった〜! 」と吹き過ぎて前からの流れを崩さないようにしましょう。[B] の 2、4 小節目にあるオクターヴの動きは、そのまま吹くといきなり音量が飛び出た印象に聴こえるので、cresc. が書かれていますが、3 拍目を大事に吹いてその息の流れに乗っかるように吹くと上手くいくと思います。4 拍目にはアクセントが書いてあるので、しっかり 8 分音符の音価分吹きましょう。22 小節目の付点 8 分音符も同様です。33 小節目のオクターヴも 3 拍目裏をしっかり吹いて 4 拍目が飛び出ないように。58 〜 59 小節目の D♭→C は音程が高くなりがちなので、左薬指でトーンホールを少しだけ押さえるなど工夫しましょう。[H] の 2 小節前からの流れは Fl. Ob. とよく音程を聴き合いましょう。D の音は先程と同じく指を足すなどして音程を調整してください。[K] の F の音は倍音を使用する技もあります。開放の B♭の運指 (左手は全部離した状態) でわざとリードミスをしてみると、あら不思議、F が鳴りますね! (ただし音程に注意しましょう!) [L] 3 小節目の F も同じく B♭の倍音をすると上手くいきます。

◆B♭Clarinet 1

1 小節目から 2 小節目 2 拍目までは f で密度の濃い音を吹いて、他のパートとしっかり音をぶつけてから dim. をします。40 小節目からの 8 分音符の動きは、スラーの 1 つ目の音にスピードをつけて、stacc. の音は楽に抜くよう心がけると、Cl. パート全体でまとまりが良くなるでしょう。65 小節目は Cl. パートの soli になります。1 拍目は f でアクセントもついていますが、ここではあまり鋭い音にならないよう、音に重さをのせてアクセントを表現しましょう。[F] アウフタクトからのフレーズや 69 小節目アウフタクトからのフレーズは、Ob. や Fl. Picc. E♭Cl. とユニゾンになりますが、いかに音程を合わせられるかがポイントになるかと思います。

◆B♭Clarinet 2

5 小節目 4 拍目からの声部は Ob. の 2 拍 3 連符からうまく繋がるように意識をしましょう。また 3rd Cl. とオクターヴの C の音程もしっかり合わせましょう。[B] から 1 拍目にある付点 8 分音符の処理、また 16 分休符の取り方をおろそかにしないようにしましょう。22 小節目は山型アクセントがついていないので 18、20 小節目との違いを明確にしましょう。24 小節目 A♭のアクセント、cresc. は音程に十分注意しましょう。また [C] からの F、G も ff、アクセントの際、音質、音程に十分注意しましょう。40 小節目からの 8 分音符の動きは音が低いので発音が遅れないように、クリアな発音を心がけましょう。[F] アウフタクトからの旋律は 1 オクターヴ上の E♭Cl.、1st Cl. とバランスが取れるようにコントロールしましょう。65 小節目から楽譜には mp 以外指示はありませんが、1st Cl. の旋律は f から dim. して mp になるので、音の移り変わりだけみせて、あとは少し控えてもいいでしょう。70 小節目からの 3 連符、16 分音符は 2nd、3rd Cl. しかしていません。声部が聞こえるように、音量コントロールはもちろ

Old Forest Chronicle / SHIOMI,Yasushi

ん、スラーの中でもはっきり吹くように心がけましょう。82 小節目から旋律が移り変わり、色々な声部が混在しますが 2 拍 3 連符等につられないように気をつけましょう。(97 小節目からも同様) 110 小節目 4 拍目乗り遅れないように気をつけましょう。

◆B♭Clarinet 3

全体的にダイナミクスに注意が必要。自分のパートだけを見ず、バンド全体としてのダイナミクスを捉えていきましょう。40 小節目からは停滞しないように、音を運ぶよう意識しましょう。クリアな発音になると尚良いかと思います。80、81 小節目は 2nd との音の繋がりに注意して、最終は dim. であってもテンポの要となる音型のため、ハッキリと演奏しましょう。110 小節目の 4 拍目は前からの流れ (乗り遅れ) に注意。

◆E♭Alto Clarinet

冒頭の ff は乱暴にならず深い響きで吹きましょう。[A] から 21 小節目までの 8 分音符ですがブレスの位置が難しいですね。ブレスによって流れを損なわないよう注意しましょう。30 小節目からのアクセントは表情を工夫しましょう。35 小節目 3 拍目裏からのメロディーは 8 分休符を休みすぎないよう、自信を持って吹きましょう。40 小節目 D から F♯の運指ですが、F2 キィを使うとスラーがかかりやすくなります。しかし音程が不安定になる場合もあるので注意しましょう。49 小節目 H から E の運指は、H 音の時に右手キィをふさいでおくとスラーがかかりやすいです。ただし右手キィを塞ぐと音程が下がりますので音程を確認しながら使ってください。98 小節目 3 拍目からの 3 連符の真ん中の B♭の時にも右手キィをいくつか押さえてやることでスラーがかかりやすくなります。工夫してみましょう。

◆B♭Bass Clarinet

曲を通してピンと張りつめた緊張感があります。テンポや強弱が変化しても、その緊張感が緩んでしまわないように気を配りましょう。冒頭は ff ですが、乱暴にならないようにしましょう。タンギングが強くなりすぎないように。[A] から 21 小節目 4 分音符までの 8 分音符はスピードのある息を使い、はっきりとした発音で演奏しましょう。22、23 小節目 4 分音符は棒吹きにならないようにしましょう。[C] 1、3 拍目 8 分音符は音を飛ばすイメージを持ちましょう。[D] アウフタクトからはそれまでと少し雰囲気が変わりますが、長い音符を演奏する時にテンポ感が無くならないように注意しましょう。48 小節目 4 拍目からの H→E の E は右手の小指のキィを使いましょう。[F] から 2 拍目の 8 分音符は mp ですが、はっきりした発音を意識しましょう。65 小節目 A♭は鳴りにくい音なので、mp をあまり意識せず、まず息をしっかり流しましょう。66 小節目 3 拍目裏からのように A→A♭の動きの時、A は人差し指+薬指の替え指を使いましょう。68 小節目 F♯で右手小指のキィを使うなら A は左手小指のキィを使いましょう。(F♯が左手小指なら A は右手小指) [H] からテンポが上がっているので、86 小節目からの 8 分音符は重たくならないよう注意しましょう。

Old Forest Chronicle / SHIOMI,Yasushi

◆E♭Alto Saxophone

音量がめまぐるしく変わる曲ですので、よく注意して変化を付けましょう。Hrn. と同じ動きをする所、Cl. と一緒に動く所、また他パートと掛け合いになる部分等、他パートの動きをよく把握しておき、それに応じた音色の変化を意識する事が大切です。冒頭から音程の合わせにくい音が続きますが、2nd の深い響きを主体に 1st が乗るようにバランスを取るとうまく揃えられるでしょう。37 小節目 solo の F 音の装飾音符は動きを前出の Ob. に揃えて表現し、替え指を使いましょう。E 音の運指から左手側サイド・キィの真ん中のキィを押さえます。45 小節目 F♯音は少々つかみにくい音です。低い E のキィを同時に押して音程を上向きに補正しても良いでしょう。楽器の構え方によっては、足や洋服等で F♯のキィが隠れてしまっていないか確認しておきましょう。(隠れていると音程がもの凄く低く聞こえてしまいます！) 速いテンポの中での 16 分音符や 3 連符の細かいリズムは、指と舌をしっかり揃えて正確に表現出来るように練習しましょう。

◆B♭Tenor Saxophone

[A] からの 8 分音符はテンポが速くならないように注意しながら演奏しましょう。また、強弱記号は f になっていますが全体のバランスを考えながら吹いてみてください。28 小節目の A♭の音は高くなりやすいので、A キィ＋右サイドの Ta キィの運指を使うと安定しやすいです。29 小節目の音の終わりが伸びすぎないように 3 拍目の頭でしっかり音を止め、後ろの 8 分休符を意識しましょう。30 小節目からのリズムですが、2 拍目の 8 分音符が詰まりすぎないように気をつけて吹いてください。66 小節目 3 拍目の下行している 8 分音符はほんの少し cresc. しながら動きを見せてみてください。116 小節目 2 拍目からの 16 分音符は次の Cl. に繋げるように気にしながら演奏しましょう！

◆E♭Baritone Saxophone

1 小節目の C の音程が低く感じる時は G♯キィを押して音程の補正をしてください。[A][C] の F の音程が低く感じる時は LowC♯キィを少し押して (半分も押さない) 音程の補正をしてください。14 小節目 [B] の C の音程は低く感じる時には 1 小節目と同様にしてください。30 小節目からの A は低くなりがちですので LowC♯キィを押して音程の補正をしてください。70 小節目 F の音程が高くなってしまう場合 LowH のキィを補正で足してください。その際 E♭、D は低くなるので LowH のキィを押えたまま進行すると音程が取り易くなります。また [H] の G が高くなる場合は 80 小節目まで LowH のキィを押えたまま進行すると G-H の連続の動きの音程調整がやり易くなります。

◆B♭Trumpet

調号はずっと♯が 2 つで、a moll かと思いきや臨時記号が至るところについており、パッと楽譜を見ただけでは調性がわかりにくいと思います。また、Trumpet にとっては音が取りにくく、指が回しづらい箇所が幾つかあるため、練習する際に歌とマウスピースで正しい音程を確認してから楽器で練習しましょう。特に、低い C 音や H 音 (3 番トリガーを使う音) の音程感

Old Forest Chronicle / SHIOMI,Yasushi

を身に付けましょう。13 小節目から [B] にかけて、音域が上がっていきますが、アクセンティッシモで表記してあるからといってタンギングが雑にならないよう、丁寧に演奏しましょう。16 分音符はダブルタンギングだと反応しにくいと思いますので、広い音域でのシングルタンギングの練習を今からしっかり練習しておきましょう。[G] から転調しています。1st にある D♭音のイメージをしっかり持ち、音量を p だと思わず、音色を p にしようと意識し、自信をもって演奏しましょう。72 小節目 4 拍目の C 音はあまり強調し過ぎず、木管のサウンドに馴染むよう演奏します。[H] から [J] の間にある、旋律に対する合いの手 (82 小節目から 84 小節目、89 小節目、93 小節目から 94 小節目) は旋律の流れにのって演奏します。冒頭と同じく、タンギングが雑にならないよう気を付けてください。[J] からは旋律ですが、116 小節目の 1 拍目まではユニゾンなので、強調し過ぎず、パートの音色を合わせて演奏しましょう。

◆F Horn

1 小節目からのフレーズは音の変わり目に緊張感を保って演奏してください。[A] からのメロディーはすべての音に山型アクセントがついていますが、響きのある音で演奏しましょう。[B] からは 1st.3rd と 2nd.4th で長さが違うので注意しましょう。22 小節目の p は全員で意識して効果的に聴かせましょう。26、27 小節目の 1 拍目と 3 拍目のアクセントははっきりつけましょう。58、59、60 小節目は和音の響きに意識しましょう。F dur に解決します。[H] の 1 拍目は前の小節とテンポ感が変わるので、入り方に注意してください。95 小節目からは音量記号の変化が激しいので差をはっきりとつけましょう。101 小節目からの cresc. は 2 小節間で p から ff まで急激に持っていってください。117、118 小節目のリズムは休符を効かせて短く演奏しましょう。全体的に f と ff がたくさん出てくるので、f で音量を出し過ぎないようにダイナミクスのバランスに気をつけて演奏しましょう。

◆Trombone

この曲は 1st、2nd のユニゾンが多く、3rd はベースラインと同じ動きをする箇所が多い曲です。1st、2nd に関しては、低音域での細かいタンギングや f、ff という大きなダイナミクスが要求されています。低音域のリップスラーや音階練習を練習に取り入れ、無理なく演奏できるようにしましょう。また、ユニゾンの練習を普段から取り入れると曲中でも自然と合わせられると思います。普段の練習を、同じオクターヴや 1 オクターヴ違いで重ねて練習することで、合わせる感覚を養うことが出来ます。曲中の注意ですが、30 小節目 1 拍目や 94 小節目 2 拍目、111 小節目 3 拍目の 8 分音符が短くなり過ぎないように注意しましょう。45 小節目、49 小節目 1 拍目、3 拍目の 4 分音符はアーティキュレーションがなにもありませんが tenuto を意識すると良いでしょう。123 小節目 3 拍目からのロングトーンは、一息で吹ききるのが難しければタイミングをずらしてブレスをしても構わないと思います。その際、入り直しが自然になるよう注意しましょう。3rd は、26 小節目～、103 小節目～など、バルブを使った細かい音が続くことが多いので、音ひとつひとつにしっかり息が入っているか確認することが大切です。106 小節目の E♭から F♯への跳躍は遅いテンポから繰り返し練習することをお勧めします。また、1st、2nd と違う動きをしていることが多いので、パート練習の際、同じ動きが多い Euph.

Old Forest Chronicle / SHIOMI,Yasushi

や低音と一緒に練習することをお勧めします。

◆Euphonium

冒頭の f は深い音色で音が抜けないように演奏しましょう。5 小節目の装飾音符は速く強くなりすぎないようにフレーズの中で演奏してください。[A] からは木管低音の皆さんとニュアンスを合わせて音が短くなりすぎないように演奏しましょう。ト と発音すると良い発音と音程になると思います。22 小節目からは何も書いてありませんが発音はクリアにスピード感のある音で演奏しましょう。[C] からは息のスピードを意識してかなりはっきりクリアに演奏してください。30 小節目の動きは他の金管楽器と吹き方を揃えてください。1 拍目の 8 分音符は音を止めますが短くなりすぎないようにしましょう。31 小節目の頭の 8 分音符も同様です。37 小節目の動きは Euph. だけの動きになりますので St.B.、Bsn. と繋がるようにはっきりニュアンスを揃えてみましょう。[H] からの伸ばしの音の音量は小さいですが、テンポを感じながら演奏してください。縦型のアクセントははっきりと演奏しますが、音や響きが短くならないようにしましょう。一緒に演奏しているパートと発音、息のスピード、音の長さを必ずチェックしておきましょう。78 小節目 3 拍目、93 小節目 3 拍目、104 小節目の 1 拍目、105 小節目の 1 拍目の音の処理と長さを必ず確認しておいてください。94 小節目からは大きなフレーズは伸ばしている音を前向きに 99 小節目の 1 拍目にフレーズの頂点を持っていってください。[J] から音の強弱はありますがすべて発音をクリアにはっきりと前向きに演奏していきましょう。いろんな場面に合った音色で演奏できると、より深い表現に繋がると思いますので是非チャレンジしてみてください。

◆Tuba

8 小節目 3 拍目までは p-pp です。演奏する 4 拍目は Tuba のみで mp ですので、あまり音量を絞りすぎないようにし、丁寧な山型アクセントで序盤の雰囲気を作りましょう。24、25 小節目はシンコペーションの動きなのに加えて、その前の小節から cresc. がかかっているのでテンポ感が重くなりがちです。Sax. と Hr. がその裏で 3 連符を刻んでいるのでそれにうまく合わせましょう。33 小節目 3 拍目の 4 分音符は短くならないように気を付けましょう。またその部分はタイで音が変わらないパートがありますので、E 音にはっきり移り変わりましょう。106 小節目から 107 小節目 1 拍目まで旋律です。[ff + 山型アクセント] ですが、音量を出すあまり短く鋭い 4 分音符にならないように一つ一つ響かせるように吹きましょう。122 小節目の 1 拍目で旋律を吹き終えますが、その音を短く止め過ぎないようにし、その後続いて吹くパートへ受け渡しましょう。

◆String Bass

5 小節目からの pizz. は音色を意識してはじく場所や力加減を工夫しましょう。[A] の 8 分音符はスピッカートで演奏します。17 小節目に cresc. がありますが [B] は mp なので、右手の弓の重さのコントロールに注意しましょう。[C] のリズムはアクセントや stacc. の付いている音とそうでない音との弾き分けを明確に。また 16 分音符のタイミングが遅れないよう早め

Old Forest Chronicle / SHIOMI,Yasushi

に準備してください。38 小節 4 拍目裏の B♭と 39 小節目 D は第 3 と第 4 の中間ポジションの 4 の指と 2 の指で押さえます。86 小節目の 8 分音符は前半とテンポが異なっていますので、決して走らないようにテンポキープしましょう。右手が力まなくても豊かな音量調節ができるように弓のスピードや乗せる重さ、弾く場所などを考えながら演奏してください。

◆Timpani

この曲は String Bass や Bass Drum とセットになっている箇所が多いので、スコアでチェックしましょう。冒頭の 3 連符ははっきりと欲しいですが、音程が明瞭に聴き取れる音色にしましょう。[B] は響きが残るようであれば休符で音を止めた方が良いでしょう。「音を出す動作」と「音を止める動作」を明確にして練習してください。[C] は木管の旋律が聴こえる音量で演奏してください。49 小節目アウフタクトからの B 音と E 音は転調のきっかけです。[F] からの雰囲気を先取りしても良いでしょう。[G] はメロディーの“ゆらぎ”に寄り添うようにすると良いと思います。全体を通して ff や fff が多いですが、あくまで「音程の聴き取れる音色」を目指してください。また音替えも多く出てきます。同じ音程でも、楽器の大きさによって音色が異なるので、どの楽器でどの音程を取るかをしっかり考えましょう。

◆Percussion 1（Snare Drum, Suspended Cymbal）

Snare Drum は、合奏によってすでにテンポが作られた状態の上に登場します。ただ、[D] から音量が弱まり、管楽器が薄くなっていることから、曲のスピード感が失われやすい場面でもあります。積極的にテンポを引き締め、停滞させないよう心がけましょう。8 分休符は 8 分音符と同じ音価です。8 ビートの中で叩く所と叩かない所があるだけだということを忘れないでください。55 小節目の cresc. は、3、4 拍目を使って一気に f まで持っていくと、迫力が増します。[H] も 8 ビートをきちんと感じ、16 分音符が寄ってしまったり、音量の凸凹がないよう、整然と叩き続けられる練習をしましょう。ここまでに付けられているアクセントは、明らかに強く出す必要はありません。通常の音よりも鋭く目立たせることを意識するだけで十分浮き上がらせることができます。[K] アウフタクトからの 16 分音符の連打は、あくまで冷静に。ロングトーンの様なイメージを持つと良いでしょう。116 小節目の cresc. は決して急がず、しかし一気に頂点まで持って行けるよう練習しましょう。力むのではなく、徐々にスティックを高くしていくだけで音量を変化させることができます。Suspended Cymbal は、125 小節目に入ってから急激に cresc. をかけると、より効果的に聴こえます。消音のタイミングをしっかりと合わせましょう。

◆Percussion 2（Suspended Cymbal, Crash Cymbals, Triangle）

26 小節目からの Crash Cymbals は、あくまでも f なので、頑張らずにシンバルと腕の重さを利用して楽に演奏しましょう。38 小節目からの Suspended Cymbal の cresc. と dim. は、p の範囲内で、そこまで劇的ではないので音量よりも手数の増減で表現すると良いでしょう。dim. の時はマレットでミュートするつもりで、少しだけ押し付け気味にすると、より減衰します。123 小節目の Crash Cymbals は、121 小節目あたりで（こっそり膝に当てる等

Old Forest Chronicle / SHIOMI,Yasushi

して）予めシンバルを震わせておくと、力強い音が出やすくなります。

◆Percussion 3（Bass Drum）

ロールが綺麗に響き、リズムを打つ場面では打点がハッキリと立つチューニングを目指しましょう。少し張りに余裕を持たせ、腕をしっかり脱力させて演奏することで深みのあるfを演奏することができます。リズムを出す場面では、左手でミュートをして調整します。[G] に入る前はしっかり余韻を止めましょう。78小節目と93小節目のロールの強弱はffですが、大きくなり過ぎないように、バンド全体とのバランスを意識しましょう。119 ～ 120小節目のロールは、あまり細かくせずに大きくとることで、タイミングを合わせて [L] に入りやすくなります。

◆Percussion 4（Wind Chime, Triangle, Xylophone）

Wind Chimeは、単純な楽器ですが、様々な音色を表現することが出来ます。それぞれの場面に合った音を出せるように研究しましょう。Xylophoneは、Snare Drumとズレないように合わせて、なお強弱をしっかり付けてください。

Old Forest Chronicle / SHIOMI,Yasushi
Old Forest Chronicle / SHIOMI,Yasushi